

日本芸術琵琶協会十一月例会

十一月十八日(日)昼一時東京文京区大塚の貸...

前田旭千、武田旭城両氏追悼演奏会

十二月二日(日)昼一時明石市一心会館、主催...

第十二回薩摩琵琶演奏大会

十二月二日(日)正午浜松市漆島公会堂、主催...

各派名流琵琶演奏大会

十二月七日(金)正午東京日本橋第一証券ホ...

錦心流琵琶演奏会

十二月二十二日(出)夕五時半東京上野本牧亭...

ラジオ琵琶放送

○十二月十三日(日)午後三時十分NHK・F...

予告

雅楽・声明・琵琶鑑賞会 一月九日(休)夕...

童歌、声明、和歌等。(招待券を要す。)

謹んで新年の御慶を申し上げる、

昭和五十五年一月一日発行(非売品)

編集者 植村 稟

琵琶

京絃

第三〇七号 京絃社



村山道宣

琵琶 (一五)

忘れられんとする音の世界

薩摩琵琶 (上)

薩摩武士と琵琶

これまで私は、南九州の地神盲僧達が戦国...

応仁の乱から二十年を経た明応二年(一四...

して廻った。また長寿院は各地を廻りながら...

「武蔵野」など、多くの教訓的な名歌を創作...

五絃閑話 (四)

水藤 五郎



会の在り方

明治後半より昭和の前半に至る数十年、琵琶黄金期に、若く、且つ魅力あふれる名人、上手が輩出した。そして五十年近く、今日の状況は、将来の存亡をも疑問視される極めて危険なものとなっている。この琵琶界の要人を見る時、名人、上手の輩出の意味を、今後の琵琶界に於いて、之をどの様に活かしてゆくべきかを考えたいと思う。

戦後三十余年、琵琶界は着実に衰退してきている。着実にと云う表現が適する語ではないながら、やはり着実に一歩一歩後退してきた。芸の社会の興亡からすれば、琵琶界に名人、上手は居なかつたことになる。

勿論、琵琶界に名人、上手は存在していたし、又、その様になるべく多くの努力を払った人々もいた。しかし、他の邦楽分野が、戦後ショックから立ち直り、高度経済成長に伴う社会文化の向上、日本古典文化の再発見等の波に乗って新たなブームを興しているのに比べ、何故、琵琶界のみが今日の低迷に甘んじているのだろうか。こゝに一つの厳しい結論を出さなければならぬ。則ち、琵琶界の体質の遅れ、低さが、新しい愛好者を得ることが出来ず、名人、上手の輩出を社会に知らすことなく時を過ごしてしまい、新しい人材の養成をなし得ぬまま今日を迎えてしまったと云う事実である。

琵琶界の体質について述べることはそのまま衰退の因を示すことにもなる。その最も顕著なものが演奏会の在り方であろう。戦後以

来今日迄、全国各地で琵琶会が開催されてきた。それは何百、何千回になるであろう。が、その活発な琵琶人の努力にも拘らず愛好者は減る一方で、時折り見られる華々しさも社会的琵琶普及にまではならなかった。

ここで考えられるのは、全てと云っていい程これ等の会が温習会、又は、それに近いものであつて、決してプログラムで称する演奏会ではなかつたことである。一門の発表会や一門の温習会でありながら、演奏会と題して開かれる会がほとんどであつた。

他の邦楽界では、今日、おさらべ会、温習会等のいわゆる門人発表会と、芸術発表の場となる演奏会、リサイタル、独演会等の会とは明白に区別されている。又、同じ温習会であつても、琵琶界の場合とは大きく異なる点がある。箏曲、三味線の場合には、門人の舞台には主催者の配慮がある。つまり、調子の合わない人や、技術の未熟な人の場合は、専門的技術の人が助演として舞台に立つて、その演技、演奏を助ける。これによって、その番組は傷の少ないものとなって、客席にある友人、知人は飽きることなく舞台を見る事が出来る。

これに比べて、琵琶会は、迷演奏としか思えない舞台であつても、十分、二十分の長い時間独演がつづくのである。調絃が不確定の人でも、歌絃が狂う人でも、悪声であつても、とにかく一人で演じる場合が多い。いくら義理で、おつき合ひで来会しても、これは耐え

られない。主催者の配慮がないのである。"かけ合い"がある場合、時間的關係からくるもの様で、合奏曲だからではない。助演する、助演されると云う意識や慣習も発生しないのである。琵琶は独りて演奏と云う固定観念にとらわれて、調子も合わない、聞き苦しい歌を十分も二十分も人に聞かせることが、如何に罪深いかと云うことを忘れていたのである。演奏会と云う名称をプロに載せて箏や三味線、その他諸々の音楽分野に於いて、十分も二十分も独奏することは極めて責任重大である。その様な場合には、調絃、歌絃の狂い等は夢にもあり得ない事と思われている。

だが、琵琶会ではこれが通常になつてきた。主催者は門人の迷演奏を何十番かつらね、絃友と称して友人を客演させ、最後に自分が演奏する。この方式が演奏会として長い年月まかり通つてきた琵琶界、他の邦楽分野では、この種の会では芸術発表をなせず、多くの愛好者に感銘を与えることが不可能と考えた演奏家は、演奏発表の専門の会を開く努力を、つづけてきた。そして既にその成果はここ五、六年の僅かの間に目ざましいものとなっている。

琵琶会を開いて、何十番の迷演奏の後の出演となる名人、上手の演奏に感動する人は琵琶の熱烈なファンと、主催者との關係で来会した琵琶人の一部であると云う繰返して、社会の大衆に名人、上手の存在を知らせることあまり役立つものではなかつた。又、名人、

上手な人々も自分が主催の会は温習会ながら、門下の迷演奏に悩む客席への配慮を怠り、自分が出演の時、客席の状況はどの様であるかを真剣に考えることなく、日本一ノ声と勝手に琵琶普及に役立ったと思つてきた。

光秀謀反の謎

富永 滋 人



明智光秀に関する通説は「信長公記」「太閤記」「惟任退治記」などによるものが多いが、これらは信長、秀吉の側から書かれており、はじめから光秀を謀反人と見立てた上での筆誅だから、正確な光秀像をとらえてはいない。

また、光秀を主体とした良質と認められていた古記録は皆無に近いから、稗史をもとにした種々の憶測推定が行われ、その数だけ違

つた光秀像が存在し、なお謎の部分も多い。その一つとして、光秀の反逆は誠仁親王(正親町天皇の第一子)の企図せるもの、との説を岐阜県の郷土史家・荒深弥左衛門氏が立てており、「恩田家所蔵文書」「美濃旧記」から想定したとの事だが、断定に至るまでのプロセスははっきりしない。そこで筆者はこの件に関して、かねて調査したことをもとに推論をこころみたい。

光秀は攻城野戦型の武将というより、むしろ外交行政の老練家で、禁裏・寺社・京都奉行を勤め、信長・將軍・朝廷の間を馳走斡旋した。自然その人柄と相俟って貴神の入魂を得たであろう。光秀の妻照子は天正四年(一五七六)十一月七日に死亡、後妻として公家原仙仁の娘を迎えている。

信長は天正二年三月、從三位參議に叙せられたのを振り出しに毎年昇進を重ね、天正六年二月正二位に叙せられた(「公卿補任」)。叙任を拝受することは、天皇に対して臣従し忠誠を誓うことの表示である。が、信長はそれから三ヶ月後に、突然官位を辞退して頭職を嫡男信忠に譲り、信忠は二十一才の若さで從三位近衛中将に叙任された。

それは兎も角、信長の官職辞任は朝廷を狼狽させた。辞任を許さず更に天正九年三月左大臣に任じようとした。それに対して信長は、正親町天皇の御譲位後に拜命する旨を奏請した。当時は終身在位が例になっている天皇に、讓位を促す潜上沙汰で、信長について「プロ

イス日本史」は次ぎのように残している。信長は自分の誕生日を聖日と定め、予自らが神体であると宣言していた。われらの主デウスは、信長があの群衆の参拝を見て味った歡喜が、十九日以上継続する事を許し給わかつた。信長に好感を持っていた宣教師さえ、信長の狂気じみた増長驕慢を非難し、間もなく起つた本能寺の変の必然性を指摘している。

朝廷では拒絶されてもおかしく、天正十年五月四日に信長を太政大臣に任ずることを決め、安土に勅使を下向させた。信長の勢威を恐れ、朝臣としての最高の職に任じ、それによって主従關係の確認を希求したのである。が、信長はこれにも答えず黙殺した。その翌月の六月二日に信長は本能寺で光秀に討たれた。ところで、当時の太政大臣は近衛前久である。天正十年二月に叙任され、僅か三ヶ月で辞任(「歴史総覧」)。信長のために空位にしたのだから、前久は後に秀吉を猶子にし、朝政を専断したほどの人物で武家びいきだが、高官の中には依然として武家嫌悪が根強い。この場合、断を下すのは誠仁親王である。

光秀反逆の理由は、諸種の要因が相乗作用して爆発したものだが、本能寺の変の直後、安土の光秀のところへ親友の神祇大副吉田兼相がいち早く駆けつけて、誠仁親王からの進物どんす一巻を渡し、光秀は有難く拝受しているが、何故誠仁親王が光秀に会釈を賜つたのか。これについて後に兼相は、秀吉に敵し

くがめられている。

誠仁親王は天正十四年七月、三十五才の壮年で急死し、その五ヶ月後に秀吉が太政大臣に任じられているが、信長の後継者であり近衛前久の猶子である秀吉の、異状と云える昇進ぶり、保守事大主義者の光秀の反逆と、誠仁親王の不自然な死は、あながち偶然の暗合ではあるまい、宮廷の密室性を考えれば、決め手を得るのは不可能だが、光秀と親王の默契という事実が、光秀反逆の謎の部分としてひそんでいる、と考えられてならない。



今は亡き戦艦大和(上)

日本海軍の威容を誇る

辻 旭 城

明けましてお目度うございます。

京絃誌の植村先生をはじめ、先輩の琵琶愛好の先生方、旧年中は一方ならぬお世話になりありがとうございます。

年頭に当り、「今は亡き戦艦大和」と題する一文を執筆いたしました。必ずや諸先生方のご期待に添えるものと存じます。

本年も頑張りますので、何卒ご支援とご教導をお願いして年頭のご挨拶と致します。

大東亜戦争は敗戦となり、無敵日本海軍が

ついに滅びて、早や四分の余の世紀を経た。かえり見れば明治五年、海軍省が創設されて以来、海軍の先鋒や将兵並びに護国の国民一人一人が、尊き血と汗との努力の結晶で營々と築きあげた「日本海軍」が、敗戦を期にして一挙に消滅してしまった。

かつては、世界三大海軍の一国として、海軍旗を高くかかげ、太平洋をわが海とし、無敵海軍と国家安泰の礎となった、世界に誇れる日本海軍は今もなく、大戦による幾多の尊い人的、戦艦大和をはじめ幾多の物的犠牲の跡に、日本は現在の繁栄を続け、わが国民は平和な太平の世に、尊いこの教訓を忘れ去られようとする現今、戦後三十年を経て、時期遅しに失するが、日本の歴史の大きな足跡と傷痕を残した海軍興亡の歴史的事実として、特に生き残ったわれわれが、誇りをもって後世に伝へ、永く伝え残しておくのが、戦争に生き残ったわれわれに課せられた一使命でもあると思う。

昭和十六年(一九四一)十二月、東条内閣成立とともに、太平洋戦争が開始された。この戦争突入と同時に、国内では物資統制令によって、物資の生産と配給がすべて一元的に統制され、青果物、鮮魚介、食肉、芋類、水産物、織維品は挙げてこの制限のもとに置かれることになった。

昭和十七から十八年にかけて、物資の配給は日とともに窮屈となり、特に主食類においては全国とも自給自足態勢をとったため、外食券制度の実施後は、その不足が極度に達し、千金を投げ出しても町では一わんの主食すら求めることができなくなり、主婦が二人寄ると食物の話のみという、みじめな状態になってしまった。

昭和十九年七月、マリアナ基地は連合軍の手に陥ち、これと前後してアッツ島で守備していた日本軍は全滅したという悲報が、敵国の飛行機から本土にバラまかれた。このころから本土への空襲は本格的となってきた。

昭和二十年の初春はこういう状況のうちに迎えられた。街頭の人々は、男子はカーキ色の国民服に巻グートル、背には鉄カブトを負い、女子は木綿半袖ものの着物に、下着は赤腰巻にモンペ姿で行進した。

どの家にも日の丸の国旗は勿論、門松もしめ飾りもなく、子供たちの紙だこはあがらず、まさに前代未聞の味気ない正月で、路上のあちこちにはごみがうす高くつまれていた。

三月のB29大空襲以後、大阪の空には毎日のように敵機が現れ、戦前六〇万の建物が整然と並び、国内第一の商工都市を誇ってきた大阪も、短時日の間に、雑草の生い茂るにまかす惨たんたる姿に一変してしまっただ。

激烈を極めた沖繩の攻防戦は南部戦線において、日本陸軍の悲慘を極めたという報に接した。戦艦大和司令長官は、昭和二十年四月六日未明、八〇〇余名の将兵を指揮して、海上に立ちこめる朝霧を衝いて、三田尻沖港を出発した。

NHKテレビ・関東ネットワーク

「現代・琵琶法師」

出演のイキサツ

鈴木 流 泉

去る十月十一日に放映されたNHKテレビ「関東ネットワーク」の終りの部で、私が、琵琶を紹介した事に就て、植村先生から、京絃に其の事を、簡略に記載せよとの事で、斯く執筆に及びましたが、特別これと云う程のことでも御座いません。

私が、宮内庁の楽琵琶の修理をしてあげたり、武蔵野音楽学校所管の博物館に、何種類かの琵琶を寄附したり・・・と云った程度の事が、何かの拍子でNHKに知られて「現代・琵琶法師」のタイトルで、前記部門に出演の依頼がありましたので、少しでも多くの人達に琵琶への関心が持たれば幸甚と思つて、それに応じた次第であります。

放映された地域(関東)に於ては、何人かの琵琶関係の方々も御覧になったと存じますが、始めに「崩れ」を一曲演奏して、後に、雅楽用の琵琶・薩摩・筑前・盲僧・平家等々私が秘蔵の楽器九面を、画面に順々に映して頂き、それぞれに就て簡単な解説を添え、少時間の対談のうちに、平豊彦揮毫の「龍」の文字が楽器の裏面に彫刻された物のほか、同

じく、後藤新平・東郷元帥の揮毫を彫刻した珍品を御披露に及び、最後に「旅の芭蕉」の一節を演奏して終わりました。

それから間もなく(同月十五日)私の居住する越ヶ谷市の市民会館展示室にて、やはりNHKの主催で、「草燃える」展が催され、其の節は、午前と午後各一時間を琵琶のために提供されましたので、「舟弁慶」と「頼朝七騎落」を演奏し、余りの時間を前記関東ネットワークの時と同様に楽器を展示して、その時は、多勢の来場者と直接に應對し色々質問に答えたりして、琵琶に対する知識皆無の人達を、些かながら啓蒙したつもりであります。これは、同市在任の俳優、金田龍之介氏(北条時政役)のサイン会と並んで大変な人気でしたので、まずは「やりがい」があったと思つて居ります。



感想

一 琵琶愛好者

早や十二月も目の前です。日頃「京絃」をたのしみに読ませて頂いております。忘れられんとする音の世界、五絃閑話など全く同感の思いがします。民謡ブーム、詩吟ブームの中に、なぜ琵琶ブームが出ないのかと、ちょっと淋しいです。

長時間独演孤立しないで、他の邦楽と共演、合奏、掛合などで舞台好果をあげて時代に交流しなれば、琵琶は取り残されそうです。立派な演奏会がアチコチに開催されていますが、一般聴衆の少ないのを残念に思います。私たちの芸の未熟も去ることながら、旧習を脱皮して大いに他芸と協調して、戦前の琵琶界のように、夢よりも一度、と奮起しなければならぬでしょう。

(註)筆者は筑前琵琶女流演奏家。一係一

吉井 良 三

東西の名曲求めて今宵聞きし
旋律に酔う帝都にての絃
(東京の都錦徳女史演奏会にて)
古き街 明石にて聞く「あゝ無情」
新曲に師の熱情昂し
(神戸の柴田旭堂女史演奏会にて)

謹 賀 新 年			
〒625 舞鶴市朝日通五條東入 電話〇七七三(六四)〇五一八番	日本旭会舞鶴琵琶協会 事務所 高橋 旭 洋	〒253 近江八幡市正神町 電話〇七四八三(二)五四七番 杉水野 田 勇治郎 錦心流琵琶教授	〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ一一 芸の友社 電話〇三(九九一)〇三六三番 鈴木 誉 士
		〒569 高槻市南総持寺町 電話〇七二六(九六)八五一六番 吉井 良 三	
〒156 東京都世田谷区八幡山二丁目 電話〇三(三二九)三五五〇番		洲 楓 会 大 館 美江子	
〒544 大阪市生野区小路二ノ一六上二五 電話〇六(七五三)〇三二五番		〒537 大阪市東成区神路三ノ八ノ十八 電話〇〇六(九七八二)二七七八番 榊 本 旭 風	
		高千穂 旭 楓	

謹 賀 新 年			
〒160 東京都新宿区西新宿六ノ三ノ三 山崎錦幽方 電話〇三(三四二)一〇六〇番	日本芸術琵琶 普絃会々員一同	〒790 松山市立花三丁目五ノ六 電話 (四一)三八八七番	日本琵琶楽協会々員 愛媛琵琶協会顧問 佐藤 晃 絃
		〒350 川越市南通町一ノ二ノ一一 電話〇四九二(二三)四四六一番	熊木 菫 水
		〒011 秋田市土崎港中央四丁目九ノ二六 電話〇一八八(四六)三三三四番	錦心流一水会秋田支部 星野 雄 水
〒420 静岡市西草深町二十一番二十号 電話〇五四二(五三)一四七一番		吟詠 琵琶 赤心流 家元 赤心流 鶴翁	
〒651 神戸市葺合区上筒井五ノ四ノ二 電話〇七八(二二二)一一六一番		宝塚専科 上原 まり (旭 艶)	筑前琵琶旭堂会 旭会大師範 柴田 旭 堂

謹賀新年

<p>本部 〒141 東京都品川区西五反田四ノ八ノ一 電話〇三(四九一)八三三二番</p> <p>支部 京都・名古屋・湘南・東北</p>	<p>前田秋声</p> <p>琵琶芸術協会代表 四絃富士会顧問 錦心流琵琶秋声会々々長</p>
<p>阿部秋子</p> <p>〒454 名古屋市 中川区 中島新町 中川住宅五ノ四〇一号 電話〇五二(三五三)〇二八四番</p> <p>琵琶芸術同好会名古屋支部 錦心流琵琶秋声会名古屋本部</p>	<p>京都琵琶協会 琵琶芸術協会 京都秋声会</p> <p>牧南水</p> <p>〒604 京都市中京区西ノ京西鹿垣町一 電話〇七五(八四一)二九八九番</p>
<p>筑前琵琶日本旭会教授 扶桑流詩吟 師範若宮旭登</p> <p>旭登会員一同</p> <p>〒189 東京都東村山市美住町一ノ四 久米川公団九ノ二〇四 電話〇四二三(九一)九三二一番</p>	<p>錦堂派</p> <p>大井錦淀</p> <p>〒369-12 埼玉県大里郡寄居町大字寄居 電話〇四八五(八一)一七四〇番 五五八</p>

謹賀新年

<p>坂本錦道</p> <p>〒188 東京都府中市新町二丁目六八 電話〇四二三(六一)五六八四番</p>	<p>錦・都派琵琶本部 家元 錦穂 外会員一同</p> <p>〒113 東京都文京区根津二ノ一五ノ二 電話 (八二二) 五七〇八番</p>	<p>林旭萌</p> <p>〒603 京都市北区上御堂上江町 電話〇七五(四四一)〇六〇九番 二三二ノ二</p>	<p>西室主 柿沢篁峰</p> <p>〒435 浜松市安松町三三ノ四 電話〇五三四(六一)三五五四番</p> <p>篁流詩吟・琵琶</p>
<p>山田幻水</p> <p>〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話 (六一) 三六七六番</p> <p>横須賀琵琶連盟</p>	<p>筑前琵琶橋会</p> <p>押川旭葉</p> <p>〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町強羅 電話〇四六〇(二二)二一一二番 一三〇〇 紅葉閣</p>	<p>一水会京都支部 会員一同</p> <p>〒606 京都市左京区下鴨蔭倉町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p> <p>錦心流琵琶</p>	<p>一水会大阪支部 会員一同</p> <p>〒570 守口市緑町土居団地一ノ一 小川吟水方 電話〇六(九九二)五六二五番</p>

年 新 賀 謹

〒569
高槻市宮田町一ノ六ノ五
電話〇七二六(九三)三一五九番

山崎光椽

大和流琵琶吟家元

山崎旭萃

筑前琵琶橋会宗範

〒670
姫路市田寺池の内八四二一八
電話〇七九二(九六)三八四四番

西川旭操
理事
会員一同

筑前琵琶日本旭会

〒125
東京都葛飾区鎌倉四ノ三九ノ四
電話〇三(六五八)一九四七番

柏木篁道

薩摩琵琶東篁会
薩摩桃山琵琶製作

年 新 賀 謹

〒154
東京都世田谷区太子堂二丁目二番八号
電話 (四一四) 六五七八番

宮崎直二

〒160
筑前琵琶 東京都新宿区三栄町十六番
電話〇三(三五一)四五九一

押田旭窈

大師範

日本旭会

〒678
相生市相生二丁目一四ノ一七
電話〇七九一二(二)五一八番

浜本旭好

〒653
神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五
電話〇七八(六七二)〇〇一八番

田中旭昇

筑前琵琶日本旭会

謹賀新年

〒194-01 新住所
 東京都町田市金井町二六一二
 電話〇四二七(三四)一一八八番
 (小田急線・玉川学園下車)

竹下翠風

翠琵琶宗家

〒171 東京都豊島区高松三ノ一二
 電話〇三(九五五)三六四五番

法汪山
藤卷旭鴻

筑前琵琶大師範

〒520 大津市逢坂一丁目一二ノ三一
 (蟬丸神社前)
 電話〇七七五(二四)九三二八番

松岡旭岡
伊藤旭暢

〒600 京都市下京区四条通高倉西南角
 (大丸前)
 (大和銀行京都ビル8F)
 電話〇七五(二三二)一四〇〇番

名誉法学博士
松本明重

日本民主同志会中央執行委員長
世界救世教外事対策委員長

謹賀新年

〒617 向日市西向日鶏冠井町山端
 二番地
 電話〇七五(九三一)一六九一番

梅原旭濤

〒603 京都市北区平野宮西町六四
 電話〇七五(四六二)一四二三番

薩摩琵琶四明会
京都琵琶協会
日本琵琶楽協会
平井春嶺

〒176 東京都練馬区旭町三ノ二二ノ四
 電話〇三(九三〇)四四九八番

宗家
水藤五郎

錦琵琶本部

〒060-91 札幌市中央区南六条西七丁目
 電話〇一一(五一二)七二五二番

岳城流薩摩琵琶
広川岳楓

年 新 賀 謹	
<p>〒040 函館市青柳町二六一一四 電話(二六)一六二三番</p> <p>高橋 蘇水</p>	<p>〒431-31 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一番</p> <p>晃陽 小野 鶴彦</p> <p>薩摩琵琶四明会々員 正絃会々員 鶴絃会々主</p>
<p>〒602 京都市上京区堀川通榎木町角 電話〇七五(二二)四〇三三番</p> <p>中島 旭穂 会員一同</p> <p>吟詠・琵琶旭穂会</p>	<p>〒336 浦和市別所四丁目一番十五号 電話〇四八八(六一)八〇一九番</p> <p>花俣 圭水</p> <p>錦心流琵琶一水会本部副会長 錦心流一水会埼玉支部顧問</p>
<p>〒662 西宮市松園町十三番二十一号 電話〇七九八(二二)八二〇八番</p> <p>楊 嶽水</p> <p>琵琶一水会神戸副支部長 琵琶蓮水会理事</p>	<p>〒113 東京都文京区本郷五十二番三十三号 電話〇三(八一)七五七四番</p> <p>会主 輝 錦凌 外会員一同</p> <p>錦心流琵琶輝派 輝水会本部</p>

年 新 賀 謹	
<p>〒535 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四 電話〇六(九五)九二九四番</p> <p>塩谷 旭洲</p> <p>筑前琵琶日本旭会 大阪中央部旭会</p>	<p>〒249 逗子市桜山三ノ四ノ五三 電話〇四六八(七三)一二二〇番</p> <p>平野 鉦水</p> <p>錦心流琵琶教授 鉦水会</p>
<p>〒520 大津市中央一丁目一番十号 電話〇七七五(二四)五〇六五番</p> <p>戸倉 旭嶺</p> <p>筑前琵琶旭会</p>	<p>〒618 大阪府三島郡島本町桜井四ノ一八ノ一〇 電話〇七五(九六一)五〇四三番</p> <p>秋元 旭晨 竹本 旭将</p>
<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇八九 電話〇七五(六九)〇一二八番</p> <p>會長 矢吹 旭美津 琵琶三美会</p> <p>田中 富水 桜井 富水 富山 富水 西村 旭清 一坊寺 旭清 外門人一同</p>	<p>〒570 守口市緑町土居田地十一号 電話〇六(九九二)五六二五番</p> <p>大阪吟水会</p> <p>中川 昌歌 関川 剛宏 増田 玄水 北村 玄水 金寄 靖水 小西 甫水 小川 吟水</p>



松田静水氏の栄誉

錦心流琵琶の最長老松田静水氏は永年にわたる琵琶を通じてその向上発展と一般民衆の思想啓蒙に寄与した功績によりこのたび勲五等に叙し瑞宝章を授与され、十一月九日夫人同伴宮中に参内し陛下に拝謁して有難いお言葉を賜った。これは松田氏個人の栄誉であるのは勿論、全琵琶人の大きな誇りと云わなければならぬ。

松田静水氏は明治二十九年生まれ。故永田錦心先生の直門で明治、大正、昭和を通じて多くの優秀な門下生を養成して世に送り出し現在一水会名誉会長、日本琵琶楽協会顧問の要職にあつて後進の指導と琵琶楽の振興に努められている。(東京都大田区南千束三丁目十七番十二号)

なお日本琵琶楽協会長吉川英史氏も同時に勲三等瑞宝章を受けられお目出度い事である。同協会では両氏叙勲の祝賀会を十二月二日東京の「南国酒屋渋谷店」に於いて開催し全国から協会員多数が出席した。

日本琵琶楽協会関西支部 一泊懇親旅行の記



支部長山崎旭萃女史のもと、平井副支部長、伊勢谷両氏企画の上、十二月二日、三日、鳥羽、伊勢へ一泊旅行を行うことになった。(大阪) 山崎支部長、榎本、伊勢谷、(神戸) 三浦、富樫、川上、楊、(名古屋) 三輪、(京都) 平井夫妻、梅原、田中(鵬)、矢吹、馬場の十四名は〇時三十分鳥羽駅で待ち合せする。京都から鳥羽まで二時間半、近鉄特急の窓からは秋晴れの山川や平野の秋色を眺め、談笑のうちに到着。鳥羽駅構内で打ち揃って昼食し旅館の簡易保険保養センターへと車で行く。

壮観なこの建物は国立公園、鳥羽湾を眼下に見下ろす美しい高台に建てられて、すべてに完備し明るく閑静で楽しい憩いのセンターと言えよう。夕食は大広間七二畳(二五〇名収容) 志摩の海の珍味を腹いっぱいに賞味す。夕食を終えて十五畳の一室に集まる。楊氏の「武將正宗」の熱演を聴く。初めに三浦女史の明快な解説があり、好評に好評、洗練された音量はいつに変わらずますます好調の感。琵琶談義に花を咲かせて十時就寝。

翌三日、朝日は緑の島々や海に輝き、小春日和に恵まれる。御木本真珠島で全員写真を撮り、海女のショウ、真珠の陳列に見入る遊覧客となたも皆美しい。これより三重バスに乗り二見浦へと案内される。海上を眺めながらの昼食はまた格別でここでも豊かな味覚に接した。二見浦夫婦岩へは徒歩で見学す。これよりバスは朝熊山(五五三m)を縦断し、延長一六キロのスカイラインへドライブす。鳥羽湾、志摩半島の雄大な景観を目いっぱい、金剛証寺(四七八メートル)へと走る。ここは臨濟宗南禅寺派別格本山で重要文化財など拝観す。バス全員揃っての撮影あり。宇治橋を渡り、五十鈴川の清い流れと千古の老杉の奥に鎮まります伊勢神宮に参詣す。心新たまり、有難さを身に覚ゆ。参拝を終えて宇治山田駅へと、途中外宮さまを車中より拝す。

山田駅では四時別れを惜しむ。かくて楽しい旅友旅行第一回を恙なく終えることが出来た。(鴨水記)

琵琶ひとすじに六十年

宮城県双葉郡川内村の役場所在地から西南



約六キロの山奥に木造平屋建ての一軒家がある。正確には上川内字長阿勢美五〇一番地。五十三年九月十日福島市公会堂で行われた県芸術祭開幕行事のトップを切って平曲教盛を演奏した薩摩琵琶総伝樋口主水さん(75)のお住まいだ。樺太から引き揚げて三十年秋入植、林野を開拓しながら夫人と建てた手造りの家で、電灯、テレビもなく一貫してランプ生活をしている。その後物置き、作業場、風呂場などを建て増し、葉煙草、野菜作りと炭焼きで生計をたてている。天然記念物指定の平伏沼から西約一キロだが、隣家まで四キロもある。

主水さんは、十四歳のとき永田錦心の琵琶にひかれて入門。初伝、中伝、奥伝、教師、皆伝、総伝とあるが、うち十年後に奥伝、教師、主水号を許され今日に及んでいる。総伝は錦心流一水会本部から授与される最高の位で全国でも五指に入る。

主水さんは、かなり人間さらいである。とくにニセモノを憎む。こと琵琶に関しては特に自分に厳しく、納得するまで何回でも練習をくりかえす。正派に属し、弾き語り以外の追隨を許さない。ここ数年各テレビ局などの出演が目立つが向かないと出ない。フジテレビのドキュメンタリー「琵琶法師阿武隈に吠える」の出演で各地からこの山奥を訪れる人々が増えたという。(月刊ふくしま掲載。宮城県吉田清幸氏からの通信)。

演奏会の慰労会

「阿部秋子琵琶の祭典特別公演」は既報の通り十月二十八日名古屋に於て盛大に開催されたがその慰労会が松村秋翠、山本紅香両会員の斡旋により十一月五、六の一泊会を愛知県三河温泉で催した。出席者は右両氏を始め前田秋声、阿部秋子、長谷川秋楓、鬼頭紅春、兵頭紅敬、田畑いと、水野ちえの諸氏でいて湯にひたりながら楽しい一夜を過ごし翌日は名古屋ターミナルホテルで別れのパーティーを行った後散会した。

京都琵琶協会の月例会

①十一月十一日(日)昼一時本部平井会長宅。竜の口・水内煨水・壇の浦(上)・山岡旭清・同(下)・矢吹旭美津・勿来の関・田中敷水・加藤清正・桜井旭富・花売翁・牧南水・紅葉狩・馬場鴨水・敦盛・梅原旭濤・本能寺・植村寛水・水天門・平井春嶺・演奏なし・林旭萌、安住旭康、荒木旭媛。このあと夕食を共にしながら①去る十月二十一日開催の演奏会収支計算報告、②来年五月二十五日京都商工会議所ホールに於て協会・一水会京都支部・四明会共催演奏会開催その他の協議をして八時前和やかに散会した。

②本年掉尾の月例会を十二月九日(日)昼一時同所にて開催、折りから日本民主同志会の「日本の宴」に出演のため入浴中の錦琵琶宗家、水藤五郎氏を来賓に迎え、平井、水内、牧、安住、山岡、矢吹、梅原、楊、戸倉、林、馬

場、植村の各会員中数氏演奏のあと水藤氏の「松の廊下」を鑑賞し二、三の協議を終って附近の料亭錦鶴に席を移し忘年会を開いて各氏の隠し芸などに興を添え来年の再会を約して七時半散会した。

創立十五周年記念演奏会

十一月十八日(日)十一時福岡市博多駅前大博多ビル十二階ホール、主催筑前琵琶保存会(会長嶺旭蝶女史)、後援県、市教育委員会ほか。国際児童年協賛全国青少年大会、福岡市民芸術祭参加。夜討曾我・飯田、阪部(各七才) 富(各十才) 岡村(十三才) 関ヶ原・松尾、藤(各十四才) 黒田武士・梶尾(十一才) 外十五人・立方福原(八才)・西日本婦人文化サークル九人・華道華の恵み・琵琶六人・華道十才二人・君が代・京都三才四才各一人・絃旭美津・舌切雀・福岡七才十一才十二才各一人・花の白虎隊・広島十一才一人・城山・福岡十五才一人・井伊大老・京都吉田旭礼・那須与市・福岡平田旭輝・絃旭園・純情無法松・河野旭嬢・絃旭蝶、旭子・太田道灌・戸畑石松旭紅・絃旭穂・那須与市・大阪奥村旭翠・二〇三高地・小倉白石旭艶・絃旭保・屋島の誉・青山旭子・壇の浦・西山旭邦・絃旭蝶・敦盛・東京半田淳子・みのりの秋・会主嶺旭蝶、青山旭子。ピアノ立花映二。